

URの三鷹市民センター周辺地区 防災公園街区整備事業における プロジェクトマネジメント

リボムの審査基準と設計VEのワークショップ
を応用したプロジェクトマネジメント

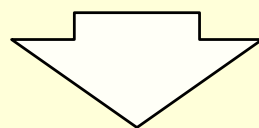
久野 暢彦

UR都市機構

平成25年8月1日

1-1 取組の課題

- ・複数の施策(防災公園の整備と施設の機能更新)を
- ・立体的な複合施設(公園と建築物)として
- ・複数の機関(三鷹市とUR各部門)が連携して行う



このような特性を持つ「先例のないまちづくり」
を、的確にマネジメントするには？

1-2 取組の問題点

(1) まちづくりプロジェクトを客観的な視点から正しく評価するにはどうすればよいか。

(2) 多様な立場から各種の専門性を持つ関係者の認識を共有化するにはどうすればよいか。

1-3-1 解決の着眼点(1)

1 リブコムとは

(1) まちづくりプロジェクトを国際的に評価・表彰する取組。

(2) これまでにも、世界レベルのまちづくりプロジェクトで多くの実績がある。

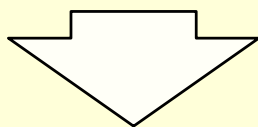
(3) まちづくりプロジェクトの評価において、実際に用いている審査基準(6項目)がある。

1-3-2 解決の着眼点(2)

2 機能を評価するワークショップ

(1)設計VEの実施手順の一つ

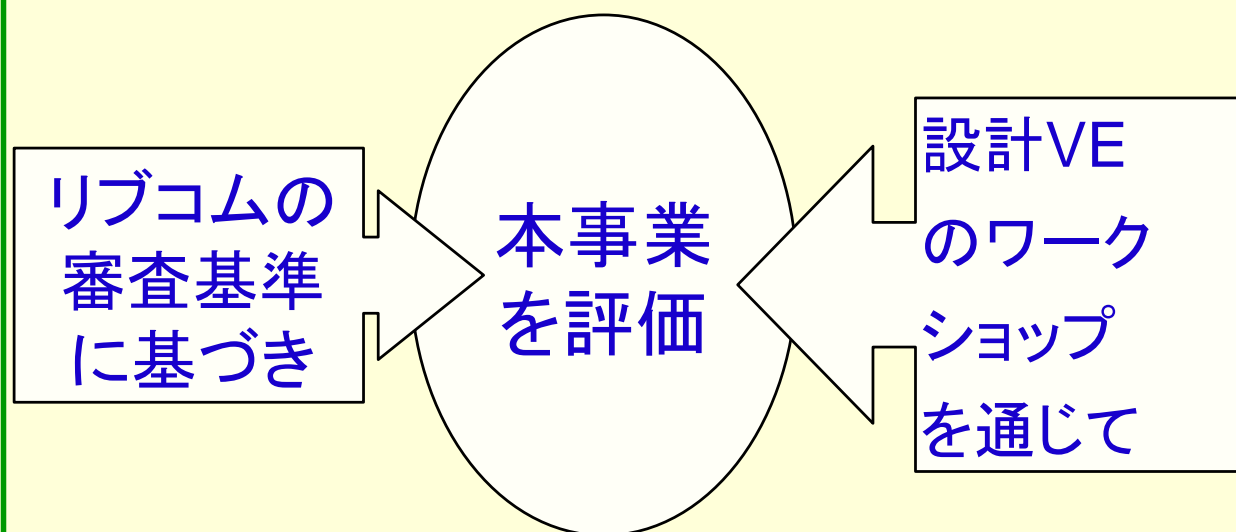
(2)機能の性能等級や改善余地について評価



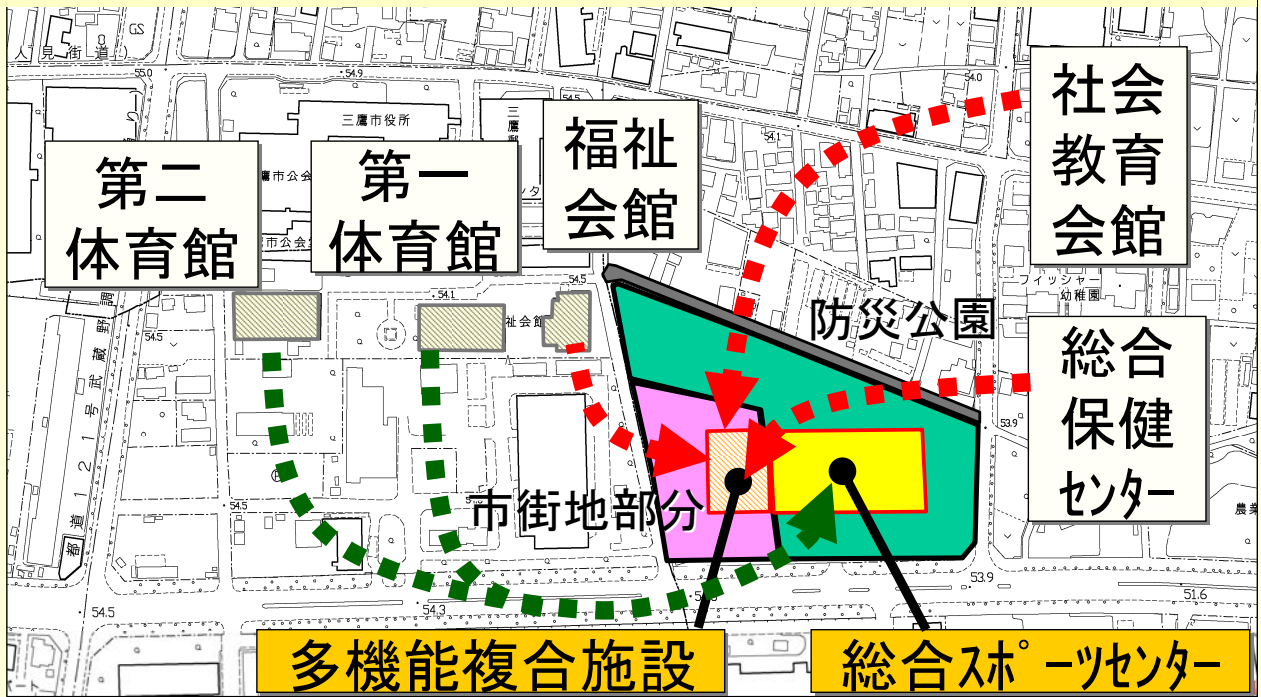
ワークショップを通じて関係者の認識を共有化することができる。

1-4 方策

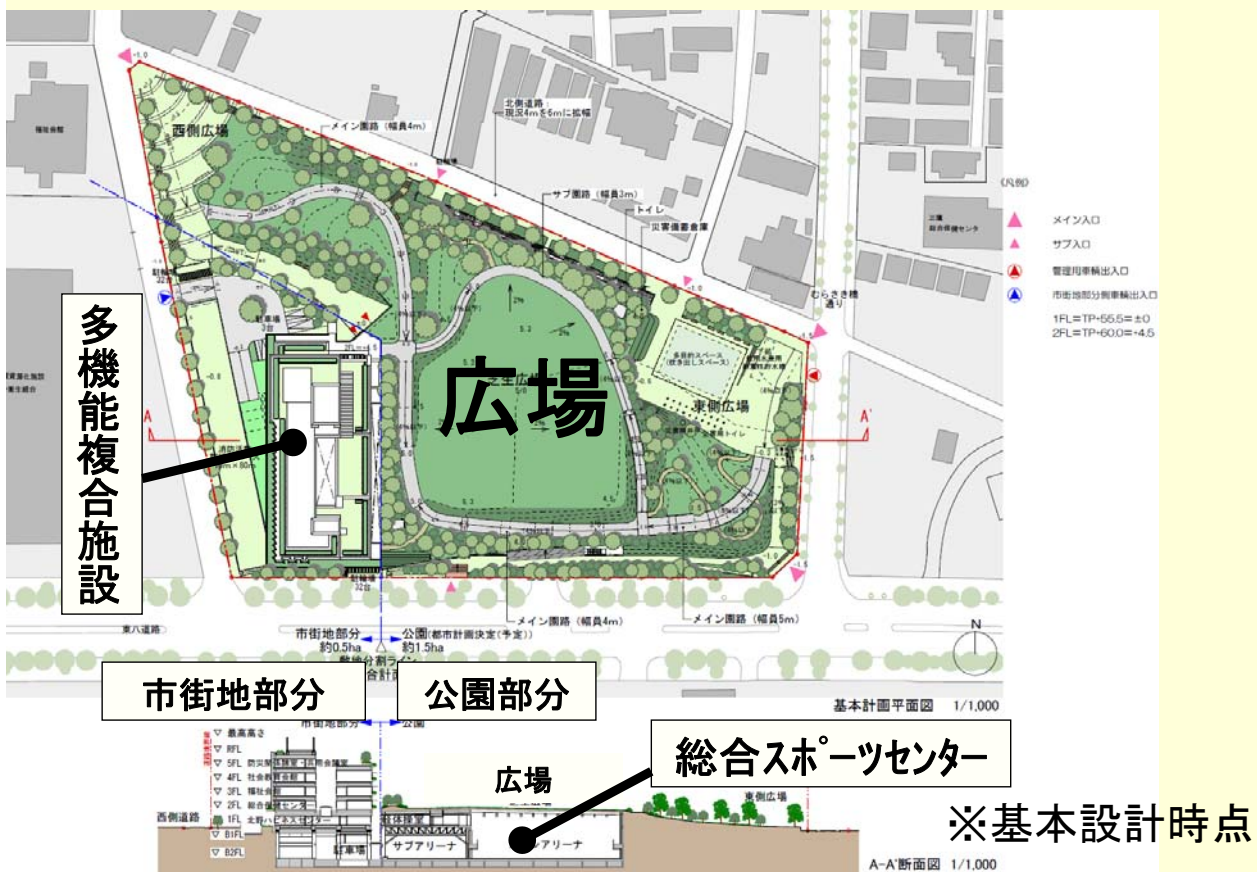
(的確なプロジェクトマネジメント)



2-1 防災公園の整備と老朽公共施設の機能更新(複数の施策)



2-2 立体的な複合施設の一体整備



3-1 機能の定義(審査基準)

審査基準を機能の定義と捉える。

- (1)自然的・人工的景観の醸成
- (2)芸術・文化・歴史的遺産への造詣
- (3)環境に配慮した最善施策
- (4)市民参加の強化
- (5)健全なライフスタイル
- (6)戦略的な計画の枠組み

3-2 機能の評価(ワークショップの過程)

(1)機能の定義(審査基準)を基本設計に
当てはめた場合の該当状況とその評価

(2)基本設計から実施設計への作業過程で
改善すべき機能

(3)実施設計で実際に改善する事項の正当性

この過程を通じて認識の共有化を図る。

3-3 実施設計への過程で改善すべき機能

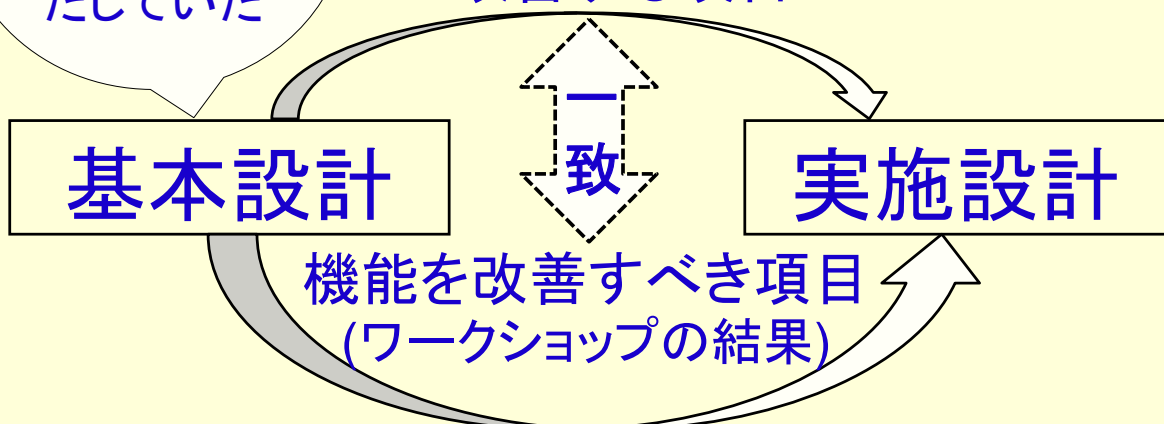
審査基準 (機能の定義)	現行値の性能等級(5段階評価)	目標値の性能等級(5段階評価)	現行値 - 目標値	ウエイト (%)	(現行値 - 目標値) × ウエイト
(1)自然的・人工的景観の醸成	4.5	5.0	-0.5	18.4	<u>-9.2</u>
(2)芸術・文化・歴史的遺産への造詣	3.0	3.0	0	14.6	0
(3)環境に配慮した最善施策	4.5	5.0	-0.5	10.7	<u>-5.35</u>
(4)市民参加の強化	4.0	4.5	-0.5	12.0	<u>-6.0</u>
(5)健全なライフスタイル	4.5	5.0	-0.5	19.3	<u>-9.65</u>
(6)戦略的な計画の枠組み	5.0	5.0	0	25.0	0

機能改善余地

4-1 考察(1)

審査基準について一定の水準を満たしていた

通常的设计過程で改善する項目

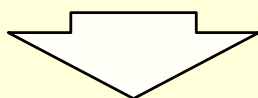


よって、本事業が正しいまちづくりプロジェクトの設計になっていることを確認できた。

4-2 考察(2)

(1)ワークショップを通じ、各項目に対する性能等級や改善すべき余地に対する評価が統一された。

(2)メンバーのコメントから共通認識も確認された。

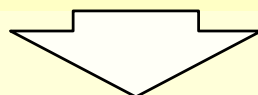


よって、本事業に対する関係者の認識を共有化することができた。

おわりに



以上のことから、本事業に合った的確なプロジェクトマネジメントを実現できた。



より確実な事業執行ができる。